

あたらしくはいった本 (令和6年2月 貸出開始資料から)

- 小説 東京都同情塔(九段理江/著) 彷徨う者たち(中山七里/著) 警官の酒場(佐々木謙/著) 冬に子供が生まれる(佐藤正午/著) 暗殺(赤川次郎/著) 二人キリ(村山由佳/著) 夜明けの花園(恩田陸/著) ブラック・ショーマンと覚醒する女たち(東野圭吾/著) 秘密の花園(朝井まかて/著) きらん風月(永井紗耶子/著) 成瀬は信じた道をいく(宮島未奈/著) わたしは異国で死ぬ(カラーニ・ピックハート/著)
- 随筆・詩などの文学 猫屋台日乗(ハルノ宵子/著) 母の最終講義(最相葉月/著) クリストイを読む!(大矢博子/著) いつかまた、ここで暮らしたら(大崎百紀/著)
- その他の本 経済学オンチのための現代経済学講義(ダイアン・コイル/著) 有元家のお弁当(有元葉子/著) 災害食ハンドブック(奥田和子/著) もっと、京都のいいとこ。(大橋知沙/著) ヒビノカテ(大竹しのぶ/著) 図解でよくわかる菌ちゃん農法(吉田俊道/著)

みんなの としゃかん



ホームページ

市民図書館
TEL (921) 4646
FAX (921) 4896

「春の朗読会」を開催

文芸作品を耳で味わうことで読書の幅を広げてみませんか。あさのあつこ/著「女、ふたり」(『もう一枝あれかし』より)、くすのきしげのり/著「Life」ほか、春の季節にちなむ短編小説やエッセイなどを取り上げる予定です。

日時 4月14日(日)午後2時30分～4時(途中休憩あり)

場所 プラム・カルコア太宰府3階視聴覚室

実演 朗読紫苑の会 参加費 無料 ※申し込み不要

としゃかんカレンダー

令和6年	日	月	火	水	木	金	土
4		①	2	3	4	5	6
	7	⑧	9	10	11	12	13
	14	⑮	16	17	18	19	20
	21	22	23	⑳	25	26	27
	28	29	30				

○印の日は、お休みです。

開館時間 午前10時から午後6時まで

金曜・土曜(祝日除く・太子の日)は午後7時まで

父からの手紙

4月から進学や就職のため実家を離れる人も多いでしょう。子どもの初めて一人暮らしとなると、送り出す親としては心配も一人と思えます。それは今も昔も変わらないうです。

公文書館が所蔵する中川家文書に、江戸時代末期、親元を離れて住込みの修業を送る息子に宛てた父親の手紙がまとまって残っています。

中川昌沢書状

急ぎ返信が欲しい時にはわざわざ人を送って手紙のやり取りをしました。そうした手間を惜しまず、父・昌沢は修業先で一人頑張っている息子に、たいそう細やかな手紙を送っています。

例えば、夏用の衣服を送ってやった時には「着古した着物はこちらへ送り返しなさい」、修業先に渡すための品物を送った時には「きちんとお礼を言ってお渡ししなさい」など、一言書き添えることを忘れません。特に用事が無い時も、「お母さんが手紙を寄こすように言っています」「弟が本を持ち帰って欲しいそうですよ」など、家族の気持ちを筆にのせて、息子のもとへ届けました。



～公文書館だより⑩～

の入手の仲介を頼み、修業についてのアドバイスを送ることもありました。父であり、医師の先輩でもある昌沢からの手紙は、啓甫にとつてうれしくも心強くもあつたでしょう。20通余りの手紙が現在まで大切に残されていることが、息子の気持ちをよく表しているようです。

太宰府市公文書館 荻野 寛美

【バックナンバーはこちら】 ページID7241